

第6学年 算数科学習指導案

1 単元名 資料の調べ方

2 単元の目標 代表値としての平均値・最頻値・中央値や散らばり，度数分布について理解するとともに，目的に応じてそれらを用いて，統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。

3 本時の学習

(1) 目標

プログラム作りを通して中央値の求め方についての理解を深める。

(2) プログラミングを取り入れる効果

- ・プログラムを組む過程で，児童が中央値の意味を確認し合うことができる。
- ・自分で計算するよりもプログラムを組んだ方が様々な場面に对应でき，速く資料のデータを処理できるというよさに気付くことができる。

(3) 展開

(4) 評価する状況と具体的な支援

学 習 活 動	指導上の留意点 (◇評価)
1 既習事項をふり返り，本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの基本操作をふり返ることで，スムーズに本時の課題に取り組むことができるようにする。 ・中央値の求め方を確認させ，本時の課題を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">プログラミングで中央値を求めよう。</div>	
2 基本操作を確認しながら，課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングでコンピュータにできることを教師とともに確認しながら進めることで，並んだ人の順番の入れ替えや，値の比較が可能であることを理解できるようにする。 ・中央値の定義を互いに話し合い，確認しながら進めるよう促すことで，プログラムに反映することができるようにする。 ◇中央値の意味とプログラムの動作を確認しながら，中央値を求めるプログラムを組むことができる。 ◇資料の数が偶数のときのプログラムについて考えている。 ◇自分で計算するより，プログラムを組んだ方が様々な場面に对应できるというよさに気付いたりしている。
3 中央値を求めるプログラムをグループで作成する。	
4 本時の学習をふり返り，まとめる。	
「十分満足できる」と判断される状況	
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	試行錯誤しながらプログラミングし，中央値の求め方についての理解を深めるとともに，これからの課題やプログラミングのよさに気付いている。 グループで互いにプログラムを確認しながら何度もくり返し試行するよう促すことで，中央値の求め方を確認しながらプログラムに反映させることができるようにする。